

# フレッシュマンコーナー

## 茅ヶ崎に背を向けて

宇部市医師会 波乗りクリニック

小早川 節

「内科」・「在宅医療」・「心療内科」の三本柱を掲げて「波乗りクリニック」を開設し、3年以上が経ちました。

印象的なクリニック名のためか、初診患者のみならず医療関係者の方も「浅黒くて、茶髪だか金髪だかのサーファーっぽい院長像」を思い浮かべているようです。実際にはスタッフの誰よりも色が白く、チョットぽっちゃりしたのが私です。初対面の時に「えっ！想像していたのと違う！」という感想を口にされることもしばしばあります。それでも「先生はサーファーですか？」と食い下がってくる人もいますが「見た目の通り、残念ながらサーファーではありません」とお答えしています。ただ、最近あまりにも同じことを聞かれ

るので、私の方も飽きてきて、相手によっては「実はこう見えてサーファーなのです！」などと、適当に答えて煙に巻いてしまいます。そんなとき、後ろで笑いをこらえているスタッフがいます。

次によく聞かれるのは「名前の由来」と「なぜこんな場所で開業を？」という2点です。これまた真剣に回答するか、その都度適当な答えではぐらかすか迷うのですが、最近はいい加減疲れてきたので、フレッシュマンコーナーであるのをいいことに、ここで説明しておこうと思います。

私は平成 10 年に山口大学を卒業し、総合診療医を目指して、福本陽平 教授（当時）の主宰する同大総合診療部に第一期生として入局しました。



波乗りクリニック外観

最初の 2 年間は同大附属病院の全内科でローテート研修しましたが、当時は今のように制度化されておらず、すべてが手探りで、指導する側もされる側も困難が多かったように思います。研修修了後は、同大学公衆衛生学教室で産業衛生、医療統計について学び、途中には島根県立中央病院総合診療科に赴任して、一次～三次ミックスの救急外来で鍛えられ、そこからの代診医として、僻地の診療所に勤務する等の貴重な経験をしました。

今から思うと、まるでピンボールの球のような動きをしていたのですが、その後は母校の総合診療部に戻り、しばらくは腰を落ち着けて助手（助教）として一般内科外来と学生教育を担当してきました。特に終盤は医学教育センターの専任教員として、診療はほとんど行わず、学部教育に専念することになりました。教育プログラムに関わったり、引きこもりの学生に関わったりと、様々な業務があり、医療職ではありませんでしたが、大変良い経験になりました。（この経験が今の心療内科診療に活かされているように思います。）

さて今回、「在宅・訪問診療に軸足を置いた診療所」を開設したわけですが、上記の経歴からは在宅医療との関わりは見えてきません。私と「在宅医療」が結びつかないわけですが、実は大学卒業直後、医師免許を取得して実に 2 週目から、岩国市の「いしいケア・クリニック」で非常勤医として毎週欠かさず訪問診療を続けてきています。特に開業直前の一年間は常勤医として毎日、岩国まで新幹線通勤をして、訪問診療のノウハウを勉強しました。

研修医の頃から週に一度の訪問診療が楽しみだったのを思い出します。（当時は今と違い、研修医のネーベンアルバイトは許されていました。）

学生時代から、「いずれは大好きな海辺で自分の診療所を持ち、自分なりのアプローチで医療を展開したい」、そう考えていました。ブラックジャックが岸壁のところに診療所を持っていたの



カニと戯れる

が私の心象風景に残っていたこともあります。一番の後押しになったのは、私の好きなドラマ「波乗りレストラン」の光景でしょうか。

これまた私が好きなサザンオールスターズの結成 30 周年を記念して作られた、知る人ぞ知る名作ドラマです。通常の帯ドラマと違い、10 分前後の計 33 話がバラバラの時間でゲリラ的に放送されたため、サザンファン以外にはあまり知られていません。

主題歌はもちろんサザンオールスターズ。33 話すべてにテーマとなる曲が割り振られています。

レストランを開くべく茅ヶ崎にやってきたワケありの男。「波乗りレストラン」と名づけた浜辺のお店はなぜかいつも休業中。そんな「波乗りレストラン」になぜかワケありの人々が次々と訪れます。ワケありの先輩、ワケありのマドンナ、ワケありの弁護士…。ワケありの人々が集うレストランには時に楽しい、時にしみじみとした時間が流れ、ワケありの人々を癒していき、いつしか休業中のマスターにも変化がおとずれます（最終話のタイトルが「茅ヶ崎に背を向けて」です）。

そんなシチュエーションが私の開業コンセプト、私自身が健康に医業をやっていきたいという希望にマッチして「波乗りクリニック」という名称で決めました。

「ドラマのように浜辺に歩いて下りて行ける立

地で探してほしい」という私のリクエストに、当初は開業コンサルタント、不動産屋、建築士も皆あきれていたのですが、それぞれにドラマの DVD をプレゼントして観てもらったところ、全員に納得してもらえました。

ドラマの通りだと開業は「茅ヶ崎で」ということになるのですが、それではあまりにも現実離れしているため、宇部市の海岸線に沿って土地を見て回る日々が続きました。紆余曲折を経て、宇部市の東部に良い土地が恵まれました。条件通り、砂浜まで直接下りていくことが出来、なんと満潮時には敷地の一部に潮が入ってくるというおまけまでついてきました。

当初は単なる私のわがままや冗談で始まったような土地探しですが、結果的には私の大好きな海を背景に、三方を「宇部興産中央病院」「山口宇部医療センター」「山口県立こころの医療センター」といった強力な後方支援病院に囲まれ、すぐ隣には、いつでも心やすく相談できる「シーサイド病院」という、在宅医療を展開するには絶好の環境になりました。全国的にも医療資源に恵まれていると評価の高い宇部市ですが、その中でもとりわけ良い立地だと、我ながら自分の強運に驚いています。

さて、波乗りクリニックを開設した「丸尾」の歴史は古く、エビの養殖場をはじめとして漁業が

盛んなところですよ。私も地元の郷土史家の先生から教科書をいただいたりして、少しずつ勉強をしているところですが、思えば私の祖父も熊本は天草の離島で、一人しかいない外科医として漁村の開業医をやっていました。今で言うところの在宅・訪問診療のはしりで、エビの養殖場の近くにある診療所で働き、夜中も患者を断らずに往診していたといいますから、私の DNA にもそれが刷り込まれているのかもしれませんが。思いもよらない偶然で、感慨深いものがあります。

開業当初はコンセプト通りにのんびりゆったりしていたのですが、一年も経たないうちに忙しさが加速し、日曜・休日返上で文字通りに訪問に走り回らなくてはならなくなりました。今では非常勤で総合診療専攻医の先生にもお手伝いいただいて、やっとやっと回っていくようになりましたが…。

そんなわけで当面は「茅ヶ崎に背を向けて」、引退後に湘南でサーフィンを始めることを夢見ながら、日々粛々と仕事に取り組んで参ります。

キャッチコピーは「I AM YOUR DOCTOR」

興味をもたれた方は、ぜひ「波乗りレストラン」をご覧ください。



待合室から海を望む